

長期金利0.9%押し上げ

財政悪化懸念が圧力

レポート「日本経済の現状を分析した
二白書」」を発表した。財政悪化による長期
金利の上昇リスクについて分析し、09年の平

內閣府
三二白書

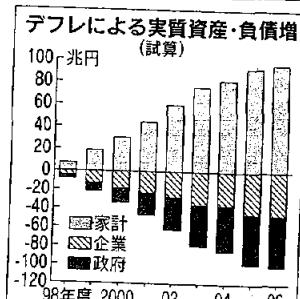
均金利1・4%のうち0・9%分が財政悪化懸念による上乗せ分になると指摘した。経済

全体については物価が持続的に下落する「フレーム」に今年4～6ヶ月期から陥っている。新興国向け輸出がけん引し景気は持ち直しているものの、経済活動の水準は低いと強調した。

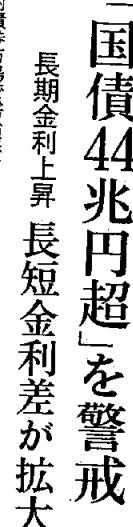
三二白書は毎年12月に作成するもので、例年夏の「経済財政白書」を補完し、足元の経済情勢を総括的に分析する役割がある。今回の題名は「フレードの景気持ち直し『低水準』経済の総点検」とした。

今年度の国債発行額が、(下落率)といつた要因を取り除くと、0.9%を減らすと、53兆5千億円になると見込まれる中、三二白書では長期金利の上昇リスクについて詳細に分析した。09年の10年物国債利回りは平均1.4%だが、在成長率や物価上昇率、金利形成に影響のある潜在成長率、景気持続性の指標である景気循環指標などを考慮すると、利上げ圧力が強まっているとした。

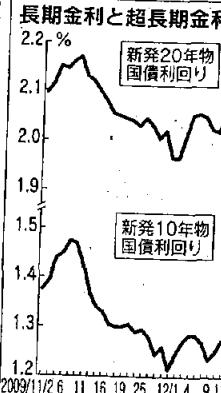
米欧と比べて、日本は景気持続性と局面での税収増を経た自動的な財政改善機能に乏しいとも分析。「意識的な財政再建に向けた努力が一と



化への警戒感。鳩山由紀夫は「規制緩和で短期金利が低下傾向にあるなか、財政規律への不安が反映され、首相が2010年度の新規国債発行額を44兆円以下に抑えるという従来の方針を見直す考えを示したためだ。日銀の追加金融緩和で短期金利が低下傾向にあるなか、財政規律への不安が反映されりつつある」と述べた。



超長い
る。



鳩山首相はこの日、44兆円以下の新規国債発行額を「上限」から「努力目標」に後退させた。10日には藤井裕久財務相が「(44兆円以下は)私は必ず守る」と発言したが、どう着地するのかが見通しづづく。長期金利に上

ジユールも見えず、中長期的な財政健全化の工程表も示されない今まで
は市場の不安感がぬぐえない。財政問題が長期化すれば、今後、日本国債の格付け引き下げ議論
が高まる可能性がある」
(みずほインベスターズ
証券の落合昌二氏)と指摘する声も出ってきた。

「44兆円超」を警戒 日比0・035%高い2年債や5年債へ資金を振り向けている（BNPパリバ証券の山脇貴史氏）という。10年夏予算の策定ニアム

ことで実質的な債務負担が高まる」とを問題視。マイナスになっている。名目成長率は依然としてデフレだった1999年、2006年度は企業の実業の稼働率が低いために、前月比のプラスが後も続くかどうかは見通しにくいとの認識を示した。

いとも指摘して、このこととが日本の物価上昇率の低さにつながっていると分析した。日本のサービスも重くなったと試算する。ただ、家計の実質的なに、輸出は堅調に伸びる。な需給悪化懸念に加え、「むしろ政府のあいまい姿勢が将来の長期的な財政不安をもたらす」と、

七 と判断。他國に比べてサニティ貢献が最も亮ナリ。カラーリング、マテリアル等の技術も世界一。